

平成24年度上期の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
今後の課題について

平成24年5月22日  
社団法人 日本酪農乳業協会  
需給委員会 (第1回: 5月11日開催)

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1-1：平成 23 年度 地域別生乳生産量（実績）

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	629	95.1%	323	99.8%	305	90.6%
5 月	662	96.5%	336	98.5%	326	94.6%
6 月	629	94.8%	328	96.7%	301	92.8%
7 月	624	94.4%	330	96.5%	293	92.2%
8 月	615	97.3%	326	99.1%	289	95.3%
9 月	594	98.0%	313	99.2%	281	96.7%
10 月	620	99.5%	322	101.4%	298	97.5%
11 月	602	100.4%	310	101.9%	292	98.8%
12 月	633	100.2%	325	100.9%	308	99.4%
1 月	646	100.7%	331	101.1%	314	100.2%
2 月	614	103.8%	313	104.1%	301	103.5%
3 月	666	105.2%	335	100.6%	331	110.4%
第 1 四半期	1,919	95.5%	987	98.3%	932	92.6%
第 2 四半期	1,833	96.5%	969	98.3%	864	94.7%
第 3 四半期	1,855	100.0%	958	101.4%	898	98.6%
第 4 四半期	1,926	103.2%	980	101.9%	947	104.6%
上期	3,752	96.0%	1,957	98.3%	1,795	93.6%
下期	3,782	101.6%	1,937	101.6%	1,844	101.6%
年度計	7,534	98.7%	3,894	99.9%	3,640	97.5%
閏年修正						
年度計	—	98.5%	—	99.6%	—	97.2%

## 概要

22年度の生産量は、夏の猛暑の影響等により下期は減少傾向にあった。

23年度は、22年度の猛暑による繁殖の遅れの影響で23年度7月頃から分娩頭数が増加したこと等により、下期からは回復基調で推移した。

なお、都府県における4月と3月の前年比が大幅な減少・増加を示しているのは、22年度3月発生 of 東日本大震災の影響によるものである。

また、23年度2月の前年比については、23年度が閏年であったことの影響により数値が増加している。

表 1-2：平成 24 年度 地域別生乳生産量（見通し）

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	650	103.4%	326	100.8%	324	106.2%
5 月	673	101.6%	342	101.7%	331	101.6%
6 月	644	102.4%	336	102.4%	308	102.5%
7 月	641	102.7%	340	103.0%	300	102.4%
8 月	624	101.6%	335	102.8%	290	100.3%
9 月	604	101.5%	322	103.0%	281	99.9%
第 1 四半期	1,967	102.5%	1,003	101.6%	963	103.4%
第 2 四半期	1,869	102.0%	997	102.9%	871	100.9%
上期	3,835	102.2%	2,001	102.3%	1,834	102.2%

## 概要

24年度の上期の生産量は、23年度後半に引き続き、前年度を上回って推移するものと見込まれる。

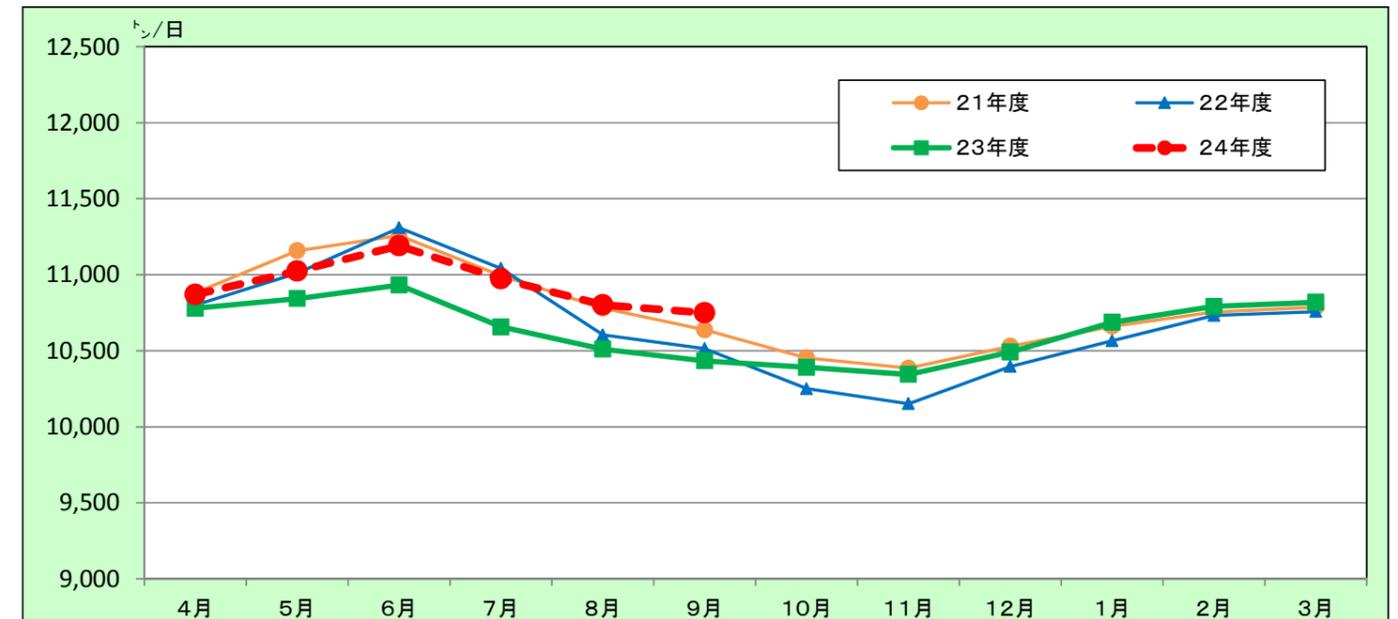
なお、都府県における4月の前年比が大幅な増加を示しているのは、東日本大震災の影響によるものである。

## 【生乳生産量の見通し】

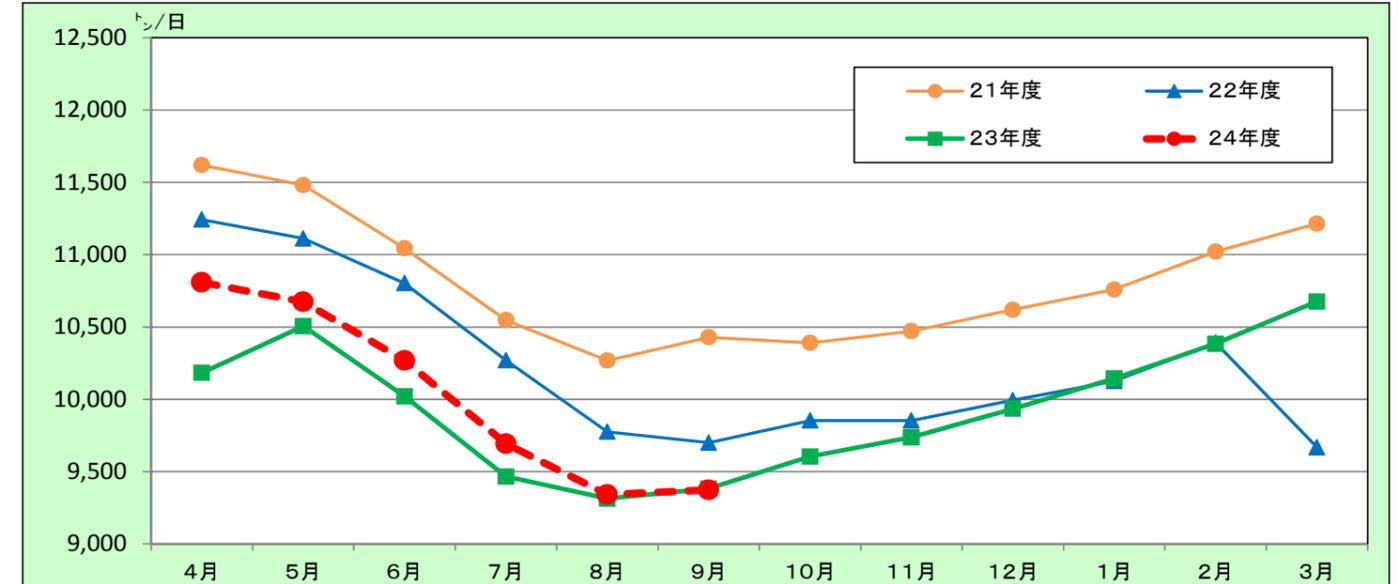
近年、飼料価格の高騰等による経営への圧迫、高齢化等により酪農家戸数が減少し続けていることもあり、直近23年度の乳用雌牛の総飼養頭数は減少傾向で推移しており、24年度も頭数は減少傾向での推移が見込まれる。

しかしながら、24年度では乳用雌牛のうち2～4歳の飼養頭数は増加傾向で推移することが見込まれ、23年度8月以降、北海道・都府県ともに、1頭当たり乳量は前年度を上回って推移している。また、北海道においては、24年度上期の分娩予定頭数は前年度を上回っていること等から、24年度上期までの生乳生産量は、23年度を上回って推移すると予測される。

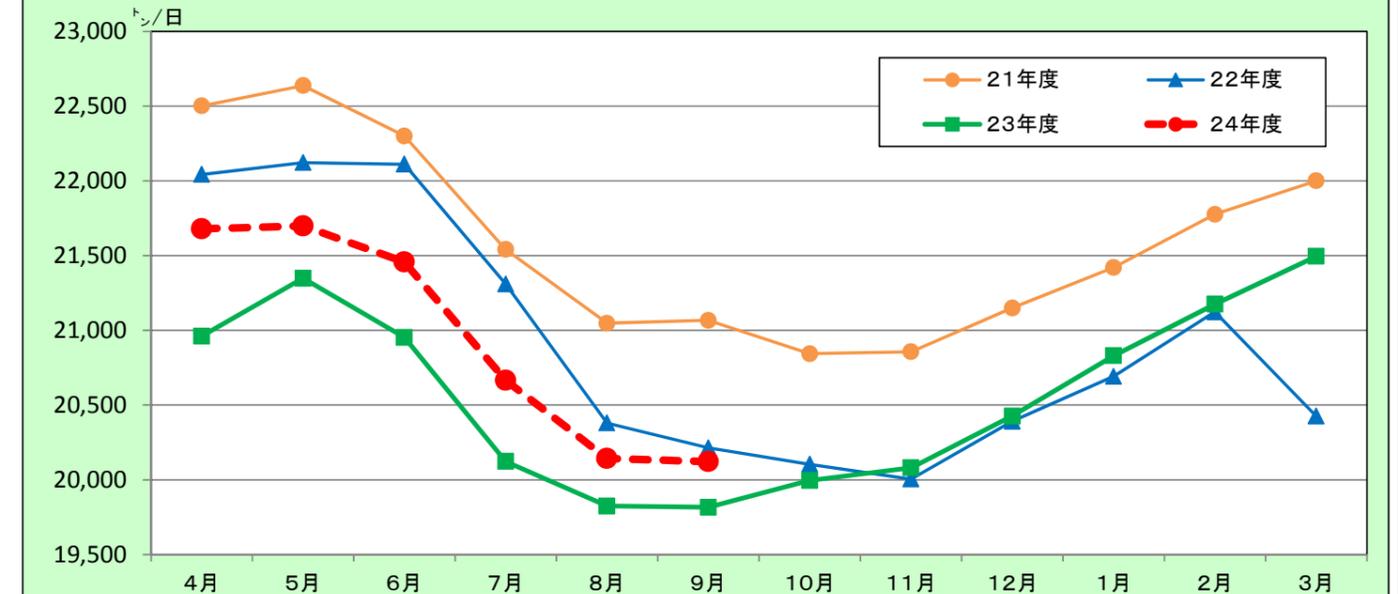
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2-1：平成 23 年度 牛乳等生産量（実績）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	401	101.2%	254	103.1%	19	92.3%	29	80.2%	101	105.7%	68	91.7%
5月	431	101.0%	270	102.6%	17	76.2%	33	90.2%	110	106.1%	72	92.3%
6月	431	99.0%	270	100.0%	16	75.9%	33	88.4%	112	104.9%	78	101.2%
7月	437	99.5%	262	99.9%	17	77.1%	35	86.9%	123	107.4%	77	99.9%
8月	423	99.6%	246	100.4%	17	75.8%	36	88.5%	124	106.2%	74	102.5%
9月	446	99.4%	272	99.3%	17	77.2%	35	89.3%	123	107.2%	76	107.5%
10月	437	99.9%	272	100.8%	16	72.8%	33	89.2%	117	106.7%	75	102.6%
11月	408	100.5%	259	100.6%	15	77.4%	30	89.7%	104	108.8%	71	107.2%
12月	387	99.8%	244	99.6%	16	80.2%	30	92.9%	97	107.0%	67	105.4%
1月	388	101.1%	247	102.9%	14	75.9%	30	92.9%	97	104.5%	73	112.3%
2月	378	102.2%	247	104.6%	13	75.6%	29	94.5%	90	103.8%	81	123.4%
3月	388	103.2%	243	101.6%	14	82.0%	31	102.0%	100	112.2%	85	154.1%
第1四半期	1,263	100.4%	794	101.9%	51	81.3%	95	86.3%	323	105.6%	218	95.1%
第2四半期	1,306	99.5%	780	99.8%	50	76.7%	106	88.2%	370	106.9%	226	103.2%
第3四半期	1,233	100.1%	775	100.4%	47	76.7%	93	90.5%	318	107.5%	213	105.0%
第4四半期	1,154	102.2%	736	103.0%	42	77.8%	89	96.3%	286	106.8%	239	128.7%
上期	2,569	99.9%	1,574	100.8%	101	78.9%	201	87.3%	693	106.3%	444	99.1%
下期	2,387	101.1%	1,511	101.6%	89	77.2%	183	93.3%	604	107.2%	452	116.3%
年度計	4,956	100.5%	3,086	101.2%	190	78.1%	383	90.1%	1,297	106.7%	896	107.1%
閏年修正												
年度計	-	100.2%	-	101.0%	-	77.9%	-	89.8%	-	106.4%	-	106.7%

### 概要

23年度は、当初、震災等の影響から大きな減少となることも懸念されたが、全体としては堅調に推移した。特に牛乳は、平成15年度以来久々に前年を上回った。種類別には、加工乳、成分調整牛乳は減少傾向で推移したが、乳飲料、はっ酵乳は逆に増加傾向で推移しており、その傾向は直近まで継続している。

表 2-2：平成 24 年度 牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	390	97.2%	243	95.8%	14	75.7%	30	106.5%	103	102.2%	84	123.7%
5月	425	98.8%	268	99.2%	15	87.3%	32	97.8%	110	99.6%	86	120.6%
6月	423	98.1%	264	97.9%	15	91.8%	33	98.7%	112	99.4%	84	108.0%
7月	426	97.4%	256	97.6%	16	91.3%	35	98.7%	120	97.4%	84	109.3%
8月	415	98.0%	242	98.3%	16	95.0%	36	98.8%	121	97.7%	80	108.2%
9月	436	97.9%	267	98.1%	15	92.7%	35	100.0%	120	97.6%	78	103.6%
第1四半期	1,239	98.1%	776	97.7%	43	84.5%	96	100.7%	324	100.3%	255	117.0%
第2四半期	1,277	97.8%	765	98.0%	47	93.0%	105	99.1%	361	97.6%	242	107.0%
上期	2,516	97.9%	1,540	97.8%	90	88.7%	201	99.9%	685	98.9%	497	111.9%

### 概要

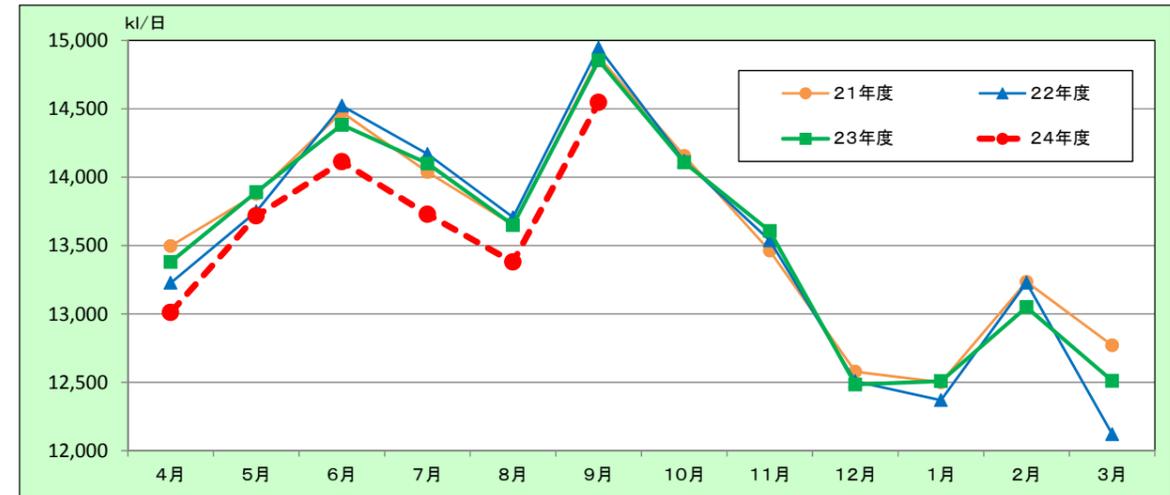
24年度は、牛乳類全体では従来の減少トレンドに徐々に回帰するものと予測される。

### 【牛乳等生産量の見通し】

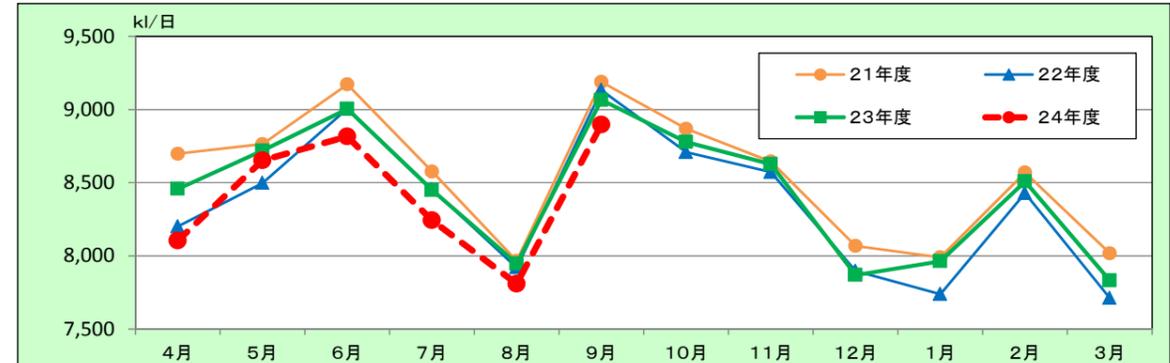
種類別に23年度の動向を見ると、「牛乳」は前年度並み程度の堅調な推移を示し、「加工乳」「成分調整牛乳」は大幅な減少、一方「乳飲料」は増加傾向で推移した。これらの要因は、震災直後において「牛乳」に製造をシフトしたことやあらためて牛乳の価値の見直しがなされたこと、原料調達状況や価格面により「乳飲料」が増加したこと等、売り場の品揃えの状況からと推測される。直近の販売データ等を見ると、この変化は今後も継続するものと考えられるが、牛乳類全体としては従来の減少基調に回帰し、前年比では下回って推移するものと見込まれる。

なお、「はっ酵乳」は、機能性といった面から近年増加傾向で推移していることに加え、直近1月以降は更にその生産量は増しており、上期もこの傾向が続くものと見込まれる。

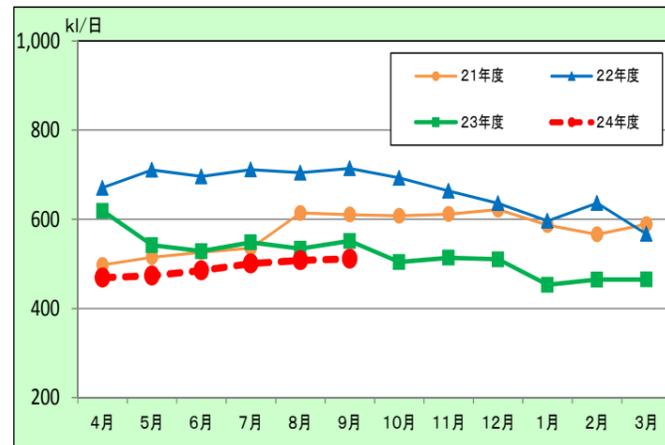
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



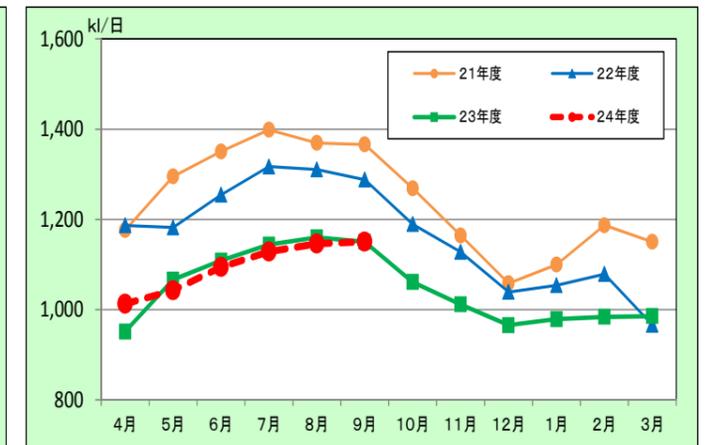
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



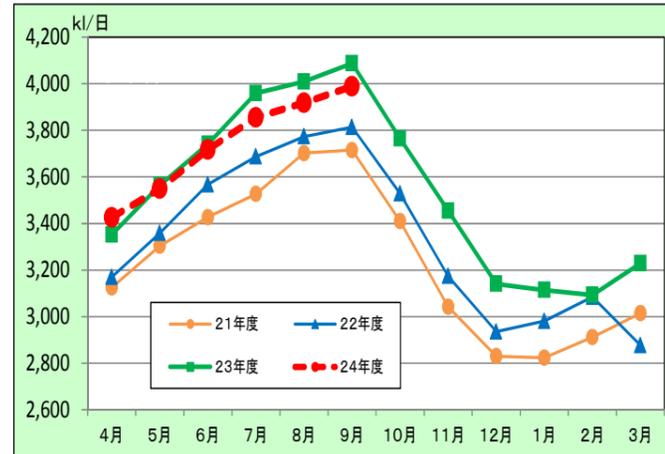
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



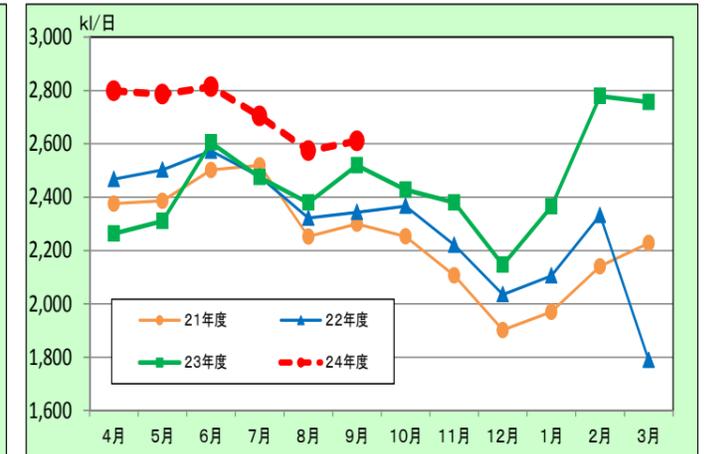
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成23年度 生乳供給量及び用途別処理量（実績）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	5	92.2%	623	95.1%	336	100.5%	288	89.5%
5月	662	96.5%	5	92.3%	656	96.5%	358	99.9%	298	92.8%
6月	629	94.8%	5	91.9%	623	94.8%	352	96.3%	271	92.8%
7月	624	94.4%	5	93.5%	618	94.4%	358	98.7%	261	89.1%
8月	615	97.3%	6	90.6%	609	97.3%	339	98.3%	270	96.1%
9月	594	98.0%	6	93.3%	589	98.1%	359	96.6%	229	100.5%
10月	620	99.5%	6	89.5%	614	99.6%	352	97.9%	262	101.9%
11月	602	100.4%	5	83.9%	597	100.5%	337	99.5%	261	101.9%
12月	633	100.2%	5	90.4%	628	100.3%	317	97.8%	311	103.0%
1月	646	100.7%	5	89.4%	641	100.8%	325	100.6%	316	100.9%
2月	614	103.8%	5	89.2%	609	104.0%	323	103.3%	286	104.7%
3月	666	105.2%	5	89.7%	661	105.4%	327	103.9%	335	106.8%
第1四半期	1,919	95.5%	16	92.1%	1,903	95.5%	1,046	98.9%	857	91.7%
第2四半期	1,833	96.5%	17	92.4%	1,816	96.6%	1,056	97.9%	760	94.8%
第3四半期	1,855	100.0%	16	87.9%	1,839	100.1%	1,006	98.4%	834	102.3%
第4四半期	1,926	103.2%	14	89.4%	1,912	103.3%	975	102.6%	936	104.1%
上期	3,752	96.0%	33	92.3%	3,719	96.0%	2,102	98.4%	1,617	93.1%
下期	3,782	101.6%	31	88.6%	3,751	101.7%	1,981	100.4%	1,770	103.3%
年度計	7,534	98.7%	64	90.5%	7,470	98.8%	4,083	99.3%	3,387	98.2%
閏年修正										
年度計	—	98.5%	—	90.2%	—	98.5%	—	99.1%	—	97.9%

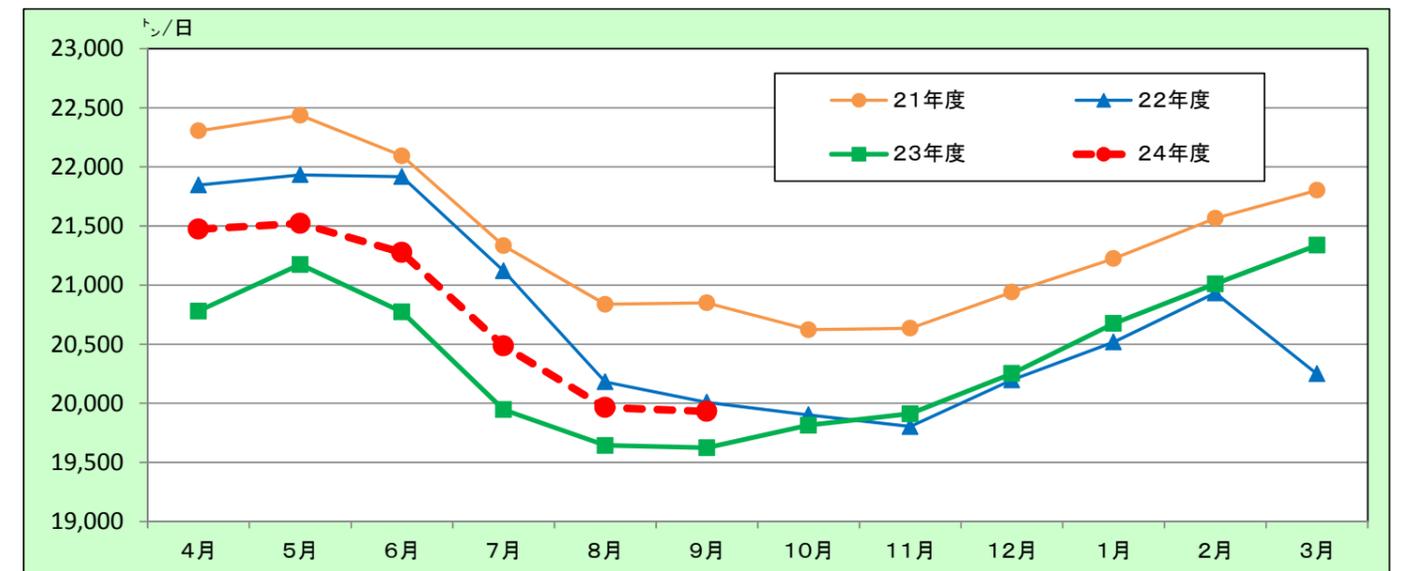
表3-2：平成24年度 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	650	103.4%	5	98.7%	645	103.5%	330	98.3%	315	109.5%
5月	673	101.6%	5	100.7%	667	101.6%	353	98.4%	315	105.6%
6月	644	102.4%	5	101.3%	638	102.4%	347	98.7%	291	107.3%
7月	641	102.7%	6	101.2%	635	102.7%	352	98.3%	283	108.7%
8月	624	101.6%	6	99.4%	619	101.6%	335	98.9%	284	105.1%
9月	604	101.5%	6	99.1%	598	101.6%	354	98.4%	244	106.5%
第1四半期	1,967	102.5%	16	100.2%	1,950	102.5%	1,030	98.4%	921	107.4%
第2四半期	1,869	102.0%	17	99.9%	1,852	102.0%	1,040	98.5%	812	106.7%
上期	3,835	102.2%	33	100.1%	3,802	102.2%	2,070	98.5%	1,732	107.1%

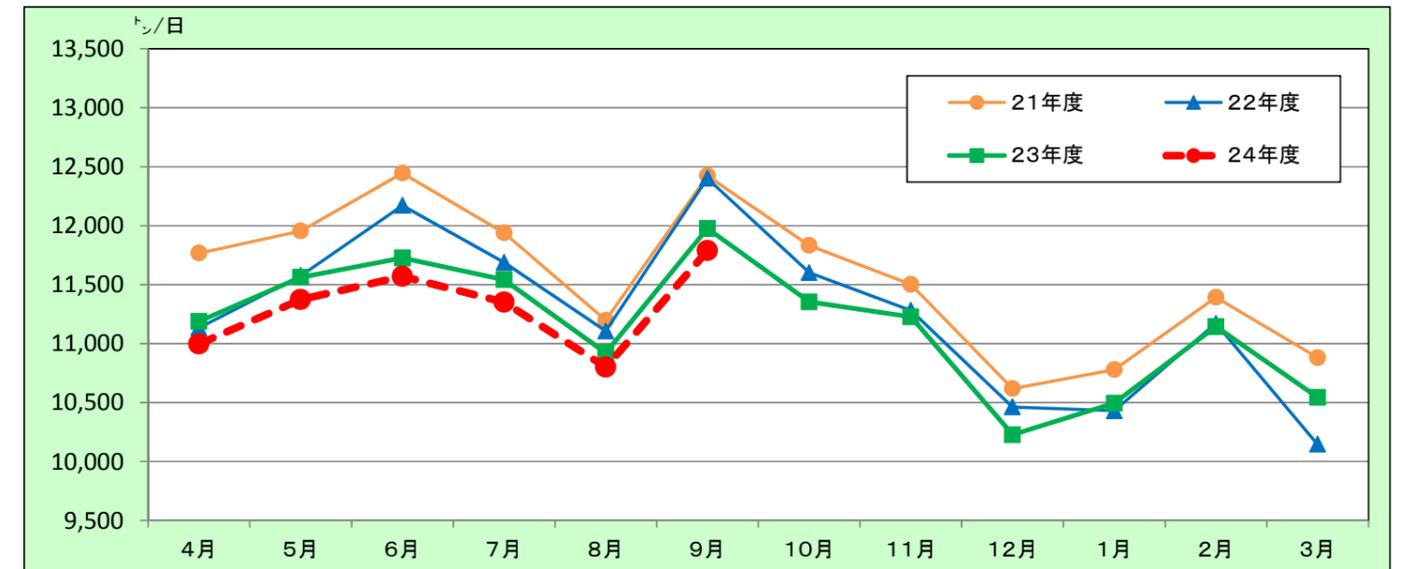
#### 【用途別処理量の見通し】

24年度上期においては、牛乳類の生産量は前年度を下回って推移すると予測されることから、牛乳等向処理量は前年度を下回って推移すると見込まれる。対して、生乳生産量は前年度を上回って推移すると予測されることから、乳製品向処理量は前年度を上回って推移するものと見込まれる。

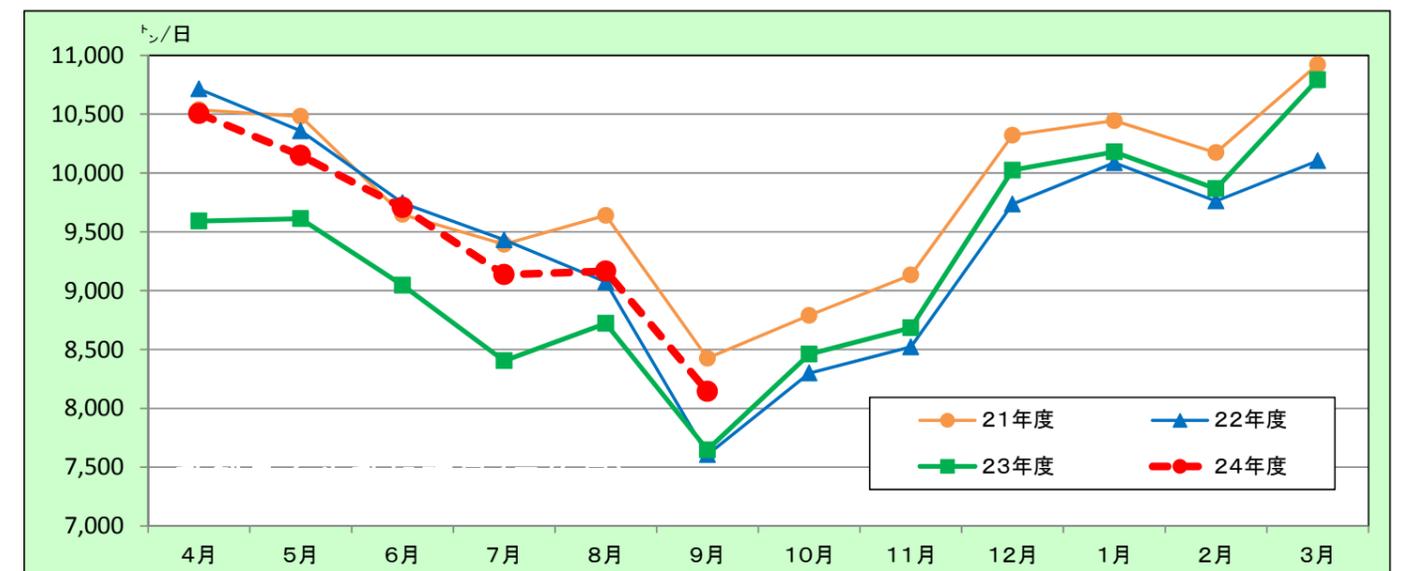
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

- ・都府県の「その他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理量」は、前年同数(前年比100%)で設定。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。
  - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
  - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4-1: 平成23年度 都府県の生乳需給(実績)

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (必要量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比			
	4月	303	90.6%	293	99.1%	14		101.2%	-4		26	124.9%
5月	323	94.8%	313	98.2%	15	113.4%	-5	28	116.5%		23	70.4%
6月	298	92.9%	307	94.2%	14	108.3%	-22	36	108.1%		14	87.1%
7月	291	92.3%	309	96.3%	14	96.4%	-32	44	109.4%		12	60.0%
8月	286	95.5%	289	95.3%	14	91.5%	-16	34	85.9%		18	83.5%
9月	279	96.9%	311	95.1%	14	107.0%	-46	54	88.8%		7	95.8%
10月	295	97.7%	305	95.8%	15	100.9%	-25	38	90.1%		14	116.8%
11月	290	99.1%	291	97.6%	16	107.8%	-17	30	90.9%		13	102.1%
12月	305	99.6%	273	95.3%	17	107.0%	15	21	76.3%		36	114.9%
1月	312	100.2%	282	98.5%	14	108.4%	15	21	90.2%	0	36	104.1%
2月	299	103.5%	280	101.1%	14	111.2%	5	22	87.2%		27	110.9%
3月	328	110.8%	282	101.9%	16	132.7%	30	19	96.2%	0	49	179.4%
第1四半期	924	92.8%	913	97.1%	42	107.5%	-32	91	115.2%		59	62.8%
第2四半期	856	94.9%	909	95.6%	41	98.0%	-94	131	93.9%		37	75.6%
第3四半期	890	98.8%	868	96.3%	48	105.2%	-26	89	86.6%		63	112.4%
第4四半期	939	104.8%	845	100.5%	45	117.1%	50	62	90.9%	0	112	129.9%
上期	1,779	93.8%	1,822	96.3%	83	102.6%	-126	222	101.5%		96	67.2%
下期	1,830	101.8%	1,713	98.3%	92	110.6%	24	151	88.3%	0	175	123.0%
年度計	3,609	97.7%	3,535	97.3%	176	106.7%	-102	373	95.7%	0	271	95.0%

表4-2: 平成24年度 都府県の生乳需給(見通し)

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (必要量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比			
	4月	322	106.3%	285	97.3%	16		116.2%	20		22	82.2%
5月	328	101.6%	305	97.4%	15	100.0%	9	23	79.9%		31	133.1%
6月	306	102.5%	300	98.0%	14	100.0%	-9	29	81.2%		21	149.5%
7月	298	102.4%	303	98.0%	14	100.0%	-18	37	85.3%		19	156.2%
8月	287	100.3%	285	98.9%	14	100.0%	-12	36	107.4%		25	138.2%
9月	279	99.9%	304	97.7%	14	100.0%	-39	47	87.0%		7	100.0%
第1四半期	956	103.4%	891	97.5%	44	105.3%	20	74	81.1%		94	158.7%
第2四半期	864	100.9%	892	98.2%	41	100.0%	-70	120	91.7%		51	136.7%
上期	1,819	102.2%	1,783	97.9%	85	102.7%	-49	194	87.4%		145	150.3%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

24年度上期における移入量(道外移出量)は、生乳供給量の増加と牛乳等向処理量の減少から、前年度に比べ減少するものと見込まれる。

しかしながら、牛乳等需要は気温や天候いかんによって大きく変動する可能性があること、生産面においても関西地域を中心とした節電要請が製造品目及び製造地域に大きく影響を与えかねないこと、加えて、需給動向は震災後大きく変化している状況にもあること等から、今後、夏場に向けては、関係者間で万全な供給体制の準備及び綿密な情報共有化に努めるとともに、特に地域別の需給動向についてもよく注視した上で、移入量の見極め・木目細かい需給調整対応を行っていく必要がある。

#### 5. 特定乳製品需給の動向

##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5-1: 平成23年度 脱脂粉乳の需給(実績)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	12.4		78.1%					13.0
5月	12.7	84.4%		12.7	104.9%	0.0	58.2	4.6	77.9%
6月	10.5	87.1%		14.0	108.9%	-3.5	54.7	4.3	73.9%
7月	8.7	75.8%		13.1	87.0%	-4.4	50.3	4.0	70.9%
8月	9.4	88.5%		12.6	94.3%	-3.2	47.1	3.7	69.1%
9月	7.9	106.7%		12.1	83.3%	-4.2	42.9	3.4	69.8%
10月	9.6	99.1%		12.1	89.5%	-2.5	40.4	3.2	70.1%
11月	10.4	96.5%		11.7	96.4%	-1.3	39.1	3.1	69.4%
12月	14.3	98.1%		11.5	85.6%	2.7	41.8	3.3	72.9%
1月	14.1	99.0%		9.9	91.3%	4.1	45.9	3.6	75.6%
2月	11.3	97.0%		10.8	92.1%	0.5	46.4	3.7	76.6%
3月	13.7	88.7%		12.5	72.1%	1.2	47.6	3.8	81.1%
第1四半期	35.7	82.8%		39.7	102.3%	-4.0	54.7	4.3	73.9%
第2四半期	26.0	88.1%		37.8	88.0%	-11.8	42.9	3.4	69.8%
第3四半期	34.2	97.9%		35.3	90.3%	-1.1	41.8	3.3	72.9%
第4四半期	39.0	94.6%		33.2	83.2%	5.8	47.6	3.8	81.1%
上期	61.7	85.0%		77.5	94.8%	-15.8	42.9	3.4	69.8%
下期	73.3	96.1%		68.5	86.7%	4.7	47.6	3.8	81.1%
年度計	134.9	90.7%		146.0	90.8%	-11.1	47.6	3.8	81.1%

表5-2: 平成24年度 脱脂粉乳の需給(見通し)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	13.8		111.3%					12.2
5月	13.4	105.2%		12.2	96.7%	1.1	50.4	4.2	87.1%
6月	11.6	109.9%		12.2	87.1%	-0.7	49.7	4.1	90.9%
7月	10.3	118.8%		12.5	95.7%	-2.2	47.5	3.8	92.8%
8月	10.3	109.9%		12.5	99.0%	-2.2	45.4	3.7	95.3%
9月	8.9	112.5%		12.5	103.3%	-3.6	41.7	3.4	97.3%
第1四半期	38.8	108.7%		36.7	92.5%	2.1	49.7	4.1	90.9%
第2四半期	29.5	113.7%		37.5	99.3%	-8.0	41.7	3.4	97.3%
上期	68.3	110.8%		74.2	95.8%	-5.9	41.7	3.4	97.3%

表6-1：平成23年度 バターの需給（実績）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	5.7	72.8%		6.9	88.8%	-1.3	19.3	2.8	59.5%
5月	5.9	79.9%	2.3	6.9	119.3%	1.3	20.6	3.0	60.5%
6月	5.0	82.2%	2.5	6.8	113.2%	0.6	21.2	3.1	62.1%
7月	4.3	76.5%	1.7	6.3	93.8%	-0.3	21.0	3.1	62.9%
8月	4.5	87.5%	1.1	5.6	87.2%	0.0	21.0	3.1	64.5%
9月	3.5	101.9%	1.9	6.0	90.1%	-0.6	20.3	3.0	68.1%
10月	4.2	93.9%	2.0	6.9	95.1%	-0.7	19.7	2.9	72.0%
11月	4.2	89.1%	2.1	7.4	96.8%	-1.1	18.6	2.7	76.1%
12月	5.8	101.3%		7.9	85.8%	-2.1	16.5	2.4	78.6%
1月	7.0	97.4%		4.5	80.4%	2.4	18.9	2.8	83.9%
2月	5.7	103.1%		5.8	83.1%	-0.1	18.9	2.8	89.3%
3月	7.4	103.3%		7.2	93.4%	0.2	19.1	2.8	92.6%
第1四半期	16.5	78.0%	4.8	20.7	105.3%	0.6	21.2	3.1	62.1%
第2四半期	12.3	86.6%	4.7	17.8	90.5%	-0.9	20.3	3.0	68.1%
第3四半期	14.2	95.2%	4.1	22.1	92.1%	-3.8	16.5	2.4	78.6%
第4四半期	20.1	101.1%	0.0	17.5	86.2%	2.6	19.1	2.8	92.6%
上期	28.8	81.4%	9.5	38.5	97.9%	-0.3	20.3	3.0	68.1%
下期	34.3	98.6%	4.1	39.7	89.4%	-1.3	19.1	2.8	92.6%
年度計	63.1	89.9%	13.6	78.2	93.4%	-1.5	19.1	2.8	92.6%

表6-2：平成24年度 バターの需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	6.3	111.3%		5.9	84.7%	0.4	19.5	2.9	97.7%
5月	6.2	105.2%	0.9	5.9	84.9%	1.2	20.7	3.2	99.7%
6月	5.5	109.9%	0.9	5.9	85.9%	0.5	21.2	3.3	99.8%
7月	5.1	118.8%	2.2	5.9	93.4%	1.4	22.6	3.5	107.7%
8月	5.0	109.9%		5.9	106.1%	-0.9	21.7	3.3	103.3%
9月	3.9	112.5%	3.5	5.9	98.5%	1.5	23.2	3.6	113.9%
第1四半期	17.9	108.7%	1.8	17.6	85.2%	2.1	21.2	3.3	99.8%
第2四半期	13.9	113.8%	5.7	17.7	99.0%	2.0	23.2	3.6	113.9%
上期	31.9	110.9%	7.5	35.3	91.6%	4.1	23.2	3.6	113.9%

【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

24年度上期の用途別処理量においては、乳製品向処理量は前年度を上回り、その他乳製品（生クリーム等・チーズ）向処理量が前年度をやや上回る程度と見込まれることから、特定乳製品（脱脂粉乳・バター）向処理量は前年度を上回って推移するものと見込まれる。

脱脂粉乳・バターの生産量は前年度との比較においては増加傾向となることを見込まれるものの、消費量が生産量を上回る状況は依然として続くものと見込まれ、今後も適切な対応が求められる。

脱脂粉乳は、上期計で5.9千トンの供給不足となると見込まれることから、24年度上期末における在庫量は41.7千トン（3.4ヶ月分）と見通され、在庫減少が見込まれる。

バターにおいても、24年度のカレントアクセス分輸入数量として上期中に7.5千トンが売り渡される予定となっており、その結果として24年度上期末における在庫量は23.2千トン（3.6ヶ月分）と見通される。

なお、特定乳製品需給については、生乳供給量や牛乳等需要の動向に大きく左右されるとともに、特定乳製品の需要自体も調製品を含めた海外市場や景気動向等の影響を強く受けるため、見通しが大きくぶれる性格を持つことに留意し、今後も酪農乳業関係者全体でその動向を注視していくとともに、計画生産目標の達成や適切な需給調整対応に努め、安定供給を図っていくことが重要である。

6. 今後の課題と対応について

【需給動向を踏まえた今後の課題と対応】

(1) 生乳生産基盤の維持・拡大

24年度上期までにおいては、生乳生産量は前年度を上回ることが見込まれるが、生乳生産基盤という点では、引き続き酪農家戸数及び飼養頭数の減少が続いている。

24年度からは、中期的に安心して生乳生産できるための環境整備として、今後3年間は前年実績以上の目標数量の配分を行う計画生産が実施されるとともに、政府のチーズ向生乳供給安定対策事業において生産者団体自らが乳製品を製造し適時に放出する取り組みや不需用期の乳製品需要創出を支援する仕組みがスタートしたところである。

そういった現状を踏まえた上で、本年度夏季に向けては、暑熱対策や飼養管理の徹底等による生乳生産量の低下を最小限に留める対策に努めるとともに、将来を見据え生乳生産基盤を維持・拡大するため、乳牛資源の確保や、酪農家の経営資源（乳牛・関係施設・機械等）の適切な継承といった諸課題を解決すべく、より一層の業界全体での協力体制の構築に努めていくことが必要である。

(2) 牛乳乳製品の需要の拡大及び的確な需給調整対応の実施

23年度における牛乳類の需要は前年度を上回って推移したが、24年度の予測では従来の減少トレンドに回帰していくものと見込まれる。また、乳製品等の安定供給が求められているが、生乳の需給動向の変化も予想され、先行きが厳しくかつ不透明な状況は今後も継続することが見込まれる。更に、需給上は本年度の気温や夏場の電力供給体制等の外部環境の変化、市場価格の動向等にも注視が必要である。

こうした状況を踏まえ、特に本年度夏季に向けては、酪農乳業関係者は一体となって地域別需給動向に配慮した木目細かい需給調整対応に努める必要がある。また、今後も継続的に、業界全体で更なる牛乳乳製品の価値向上及び幅広い層への価値訴求を積極的に行っていくとともに、日々の需給動向に注視し情報共有化・発信に努め、適切な需給調整対応を行っていくことが強く求められる。